

1:25,000  
都市圏活断層図  
Active Fault Map in Urban Area

### 第四系基底面標高

## 山形 YAMAGATA

活断層調査：八木浩司<sup>※1</sup>、今泉俊文<sup>※2</sup>、佐藤比呂志<sup>※3</sup>、  
後藤秀昭<sup>※4</sup>、松多信尚<sup>※5</sup>、越後智雄<sup>※6</sup>、  
丹羽俊二<sup>※6</sup>

国土地理院  
Geographical Survey Institute

<sup>※1</sup>山形大学、<sup>※2</sup>山形大学、<sup>※3</sup>東京大学、<sup>※4</sup>福島大学、<sup>※5</sup>千葉大学、<sup>※6</sup>国土地理院

### 記号 Legend

活断層 Active Fault Trace	最近数十万年間に、概ね千年から数万年の期間で繰り返し活動してきたのが都市圏にあり、今後も活動を繰り返すと想定される活断層。活断層の位置が明確であるもの。
活断層(位置が不明確) Active Fault Trace (site indistinct)	活断層のうち、活断層の位置が人工的改修等により不明確なものを示す。
活断層(線画) Active Fault Trace (contour)	活断層のうち、位置が不明確なもののうち、地形図の等高線に沿って走っているもの、または地形図の等高線とほぼ平行に走っているもの。
活断層(存在) Active Fault Trace (contour)	活断層のうち、活断層の位置が不明確なもののうち、地形図の等高線に沿って走っているもの、または地形図の等高線とほぼ平行に走っているもの。
傾ずれ Dip Slip	活断層の傾斜が水平方向のずれの向きを伴って傾いている活断層を示す。
傾ずれ Dip Slip	活断層の傾斜が水平方向のずれの向きを伴って傾いている活断層を示す。
地震断層 Earthquake Fault	地震発生時に活動したことが知られている活断層。活断層と区別される。活断層は活断層の位置が不明確なものを示す。
トレンチ調査地点 Trench Survey Site	活断層の活断層の位置に調査地点(トレンチ)を掘り、活断層の位置を確認した調査地点。これまでに活断層の位置が不明確なものを示す。
活断層の名称 Name of Active Fault	活断層の名称。
推定活断層(地表) Presumed Active Fault (by prospecting data)	地質学的特徴により、活断層の存在が推定される活断層。活断層と区別される。活断層は活断層の位置が不明確なものを示す。
推定活断層(地下) Presumed Active Fault (by prospecting data)	新しい地質学的特徴により、活断層の存在が推定される活断層。活断層と区別される。活断層は活断層の位置が不明確なものを示す。
活断層 Active Fault	活断層のうち、活断層の位置が不明確なもののうち、地形図の等高線に沿って走っているもの、または地形図の等高線とほぼ平行に走っているもの。
地形図の傾斜方向 Tilt Direction	地形図が、現在も維持している地形図の傾斜方向を示す。
上位段丘 Higher Terrace	活断層の両側の地形で形成された段丘。約数十万年間に形成された段丘。
中段丘 Middle Terrace	活断層の両側の地形で形成された段丘。約十数万年間に形成された段丘。
下位段丘 Lower Terrace	活断層の両側の地形で形成された段丘。約数万年間に形成された段丘。
沖積地 Alluvial Lowland	数千年から数万年の間に形成された、活断層の両側の地形で形成された沖積地。活断層の両側の地形で形成された沖積地。
扇状地 Fan	活断層の両側の地形で形成された扇状地。活断層の両側の地形で形成された扇状地。
埋立地・干拓地 Filled-up Land	活断層の両側の地形で形成された埋立地・干拓地。活断層の両側の地形で形成された埋立地・干拓地。
地すべり Landslide	活断層の両側の地形で形成された地すべり。活断層の両側の地形で形成された地すべり。
変位した谷 Offset Channel	活断層の両側の地形で形成された変位した谷。活断層の両側の地形で形成された変位した谷。
火口・カルデラ Crater/Calders	活断層の両側の地形で形成された火口・カルデラ。活断層の両側の地形で形成された火口・カルデラ。
活断層の表面 Surface of Muflow	活断層の両側の地形で形成された活断層の表面。活断層の両側の地形で形成された活断層の表面。

- 図法・資料
1. 投影法はユークリッド幾何学によるメルカトル図法。
  2. 高さの基準は東京湾の平均海面。
  3. 活断層の調査は1:25,000地形図。
  4. 採用した地形図は1:25,000地形図。
- 参考文献
1. 山形県 (1997)：山形県活断層調査報告書。山形県。512。20-26。
  2. 山形県 (1981)：土地分断調査報告書(山形)。(1979)。
  3. 山形県 (1982)：土地分断調査報告書(山形)。(1979)。
  4. 山形県 (1983)：土地分断調査報告書(山形)。(1979)。
  5. 山形県 (1984)：土地分断調査報告書(山形)。(1979)。
  6. 山形県 (1985)：土地分断調査報告書(山形)。(1979)。
  7. 山形県 (1986)：土地分断調査報告書(山形)。(1979)。
  8. 山形県 (1987)：土地分断調査報告書(山形)。(1979)。
  9. 山形県 (1988)：土地分断調査報告書(山形)。(1979)。
  10. 山形県 (1989)：土地分断調査報告書(山形)。(1979)。
  11. 山形県 (1990)：土地分断調査報告書(山形)。(1979)。
  12. 山形県 (1991)：土地分断調査報告書(山形)。(1979)。
  13. 山形県 (1992)：土地分断調査報告書(山形)。(1979)。
  14. 山形県 (1993)：土地分断調査報告書(山形)。(1979)。
  15. 山形県 (1994)：土地分断調査報告書(山形)。(1979)。
  16. 山形県 (1995)：土地分断調査報告書(山形)。(1979)。
  17. 山形県 (1996)：土地分断調査報告書(山形)。(1979)。
  18. 山形県 (1997)：土地分断調査報告書(山形)。(1979)。
  19. 山形県 (1998)：土地分断調査報告書(山形)。(1979)。
  20. 山形県 (1999)：土地分断調査報告書(山形)。(1979)。

利用上の注意

1. この図の特長  
この都市圏活断層図は、活断層の位置に関する最新の調査成果に、地形図を基として作成された。
2. 活断層の位置  
この図に示す「活断層」とは、最近数十万年間に約千年から数万年の期間で繰り返し活動してきたのが都市圏にあり、今後も活動を繰り返すと想定される活断層の位置を指します。このうち、活断層の位置が不明確なものを示す。活断層の位置が不明確なものは、活断層の位置が不明確なものを示す。活断層の位置が不明確なものは、活断層の位置が不明確なものを示す。活断層の位置が不明確なものは、活断層の位置が不明確なものを示す。
3. 活断層の位置  
この図に示す「活断層」とは、最近数十万年間に約千年から数万年の期間で繰り返し活動してきたのが都市圏にあり、今後も活動を繰り返すと想定される活断層の位置を指します。このうち、活断層の位置が不明確なものを示す。活断層の位置が不明確なものは、活断層の位置が不明確なものを示す。活断層の位置が不明確なものは、活断層の位置が不明確なものを示す。
4. この図から判読できること  
この図では、それぞれの活断層が過去にいつ動いたのかは示していません。従って、それぞれの活断層がいつ動くか、いつ動かないかは、この図からは判読できません。活断層がいつ動くか、いつ動かないかは、この図からは判読できません。活断層がいつ動くか、いつ動かないかは、この図からは判読できません。
5. この図を引用する場合の記載  
八木浩司、今泉俊文、佐藤比呂志、後藤秀昭、松多信尚、越後智雄、丹羽俊二 (2007)：1:25,000都市圏活断層図「山形」。国土地理院技術資料D-1-1-No.388。

1:25,000 山形

500 0 500 1,000 1,500

平成12年調査・編集  
平成13年12月発行  
国土地理院  
編集者 山形県建設部  
発行所 国土地理院  
印刷所 国土地理院

----- 第四系基底面  
数字は標高(m)

▲ 沖積/洪積の境界面  
までの深度(m)

出典：  
「山形盆地の地下構造-村山市浮沼の調査試錘を中心として-」第4回  
山形井徹、山形応用地質(第5号)1985年3月

上記資料を基に「都市圏活断層図「山形」：国土地理院」に加工して作成している。

山形設計株式会社

